令和4年度 No.7

駒岡小学校だより

１１月号

ふるさと――駒岡

校長　岸田 薫

10月22日、さわやかなお天気の下で第50回秋季運動会が開催され、おかげさまで大きなけがもなく、無事に終えることができました。コロナ禍の運動会については、ご家庭の皆様も様々に思うところはあるかと思いますが、子どもたちはこれまでの練習の成果を発揮し、一生懸命に短距離走や演技に取り組みました。一人ひとりの笑顔が輝く一日になりましたこと、ご家庭や地域の皆様に、改めて感謝申し上げます。

運動会が終わると、次は50周年の記念式典が待っています。11月12日に、子どもたちによる式典と、地域の皆様をお招きしての式典と、二部構成で開催いたします。子どもたちは、当日に向け、駒岡小学校をお祝いする気持ち、50年間の感謝の気持ち、駒岡のまちを愛する気持ちを高めながら、お祝いの飾りや旗、バースデーケーキ、くす玉などの制作に取り組んでいます。

昭和60年3月に発行された『わたしたちの町　駒岡』に、第三代校長の中山保男先生の「ふるさと―駒岡」と題した文章が掲載されています。その中にこう書かれていました。

ふるさとはそこをはなれると、なつかしいなあと思うものらしい。「ふるさとは遠くにありて思うもの……」とうたった詩人があります。

そして、「ふるさとの力」、「駒岡で育つ」とはどういうことなのか、と続きます。駒岡で学び、駒岡を学んだ子どもたちが大人になったとき、「ふるさと駒岡」にどんな思いをはせるのでしょうか。今年、50周年を祝った子どもたちが、駒岡の風土を、まちを、人を愛し、駒岡を「わがふるさと」と言ってくれたら嬉しいなと思います。

さつまいも作りや水田での稲作、菜の花の栽培を教えてくださる方々、開校当時のことをお話してくださる方々、駒岡で作った野菜のおいしさを伝えてくださる方々…。多くの人に支えられて今があることを、50周年を機に今一度見つめなおし、駒岡でともに生きる者としての自覚と誇りを高めていきたいと思います。

朝日新聞の一面に、大岡信氏が、毎朝一作の短詩を取り上げて鑑賞するコーナーがありました。それを一年365日に配して編集された『折々のうた　三六五日』（2002年12月・岩波書店）という本があります。ふと、50周年記念式典の開催される11月12日には、どんな詩が取り上げられているのかと思い、その日のページを開いてみました。

ふるさとは遠きにありて思ふもの　そして悲しくうたふもの　室生犀星

駒岡小学校がみんなのふるさととなるよう、充実した教育活動を進めてまいります。今後とも、どうぞよろしくお願いいたします。